

第29回全日本大学男子選手権大会

沖縄国際大学初優勝！

京都産業大学2連覇ならず



▶粘り強い投球でチームを優勝に導いた沖縄国際・儀保

標記大会は、『水と緑と詩の街』県都・前橋市で開催された。連日の猛暑の中、大会役員・選手が大会の成功に向けて努力したが、最終日は雨に見舞われ、予備日の22日に準決勝戦、決勝戦が行われた。

当日は雨のため、グラウンドコンディションが悪く、早朝から大会役員、大会に参加している大学の学生により、グラウンド整備と会場造りが行われた。学生の中には指導者を目指す者もいると思うが、率先してグラウンド整備を行ったことは、指導者としてこれから先あらゆる面で生かされて来るだろう。

大会は、2連覇を狙う京都産業大学が福島大学に17対0と大勝し、連覇へ向けて好調なスタートを切ったが、昨年準優勝の中京大学、3位の東海大学が相次いで敗れるなど、波乱の幕開けとなった。

準決勝には、2連覇へ向け下馬評通りの強さを見せ勝ち上がった京都産業

大学。地元・群馬の関東学園大学の野望を粉砕した神戸学院大学。好投手・儀保を擁し、名門・日本体育大学を破り勢いに乗る沖縄国際大学。チームのまとまりと粘りで接戦を制してきた龍谷大学。以上の4チームがベスト4に進出した。

準決勝、沖縄国際大学対龍谷大学の対戦は、龍谷が先手を取った。初回一死後、安打で出塁の2番・川嶋(仮)を一塁に置き、3番・川嶋(仮)がライト線に三塁打を打ち1点を先取した。

一方、沖縄は3回、この回先頭の9番・新垣(仮)が左前安打、次打者の4球目に盗塁を成功させ、さらに内野安打で一・三塁とチャンスを広げ、3番・平良の三・遊間を破るタイムリーでまづ1点。二死後、5番・新垣(仮)が三塁線を破る安打を打ち、逆転に成功した。その裏、龍谷も相手失策で同点に追いつき、迎えた最終回、沖縄は先頭の9番・新垣(仮)が相手失策で出塁、投手野選と犠打で一死二・三塁の絶好機を

平成6年8月19日(金)〜22日(月)
群馬県前橋市/南部運動場
日ソ協記録委員 田中 茂富

迎え、3番・平良のショートゴロの間に三塁走者が生還。貴重な1点を挙げ、辛くも逃げきって決勝戦へ駒を進めた。京都産業大学と神戸学院大学の対戦は、京都が初回、2安打と四球で無死満塁のチャンスをつかみ、4番・馬場のレフトへの犠飛で1点を先制。その後3回、3番・由良が左越ソロ、7回にもこの日2本目となる左越3ラン本塁打を打ち、着実に得点を重ねた。

神戸は、京都・馬場、天野両投手の好投に反撃の糸口が見い出せず、最終回、飯田が左越2ランで意地を見せたが反撃もここまで。

京都は危ない試合運びで2連覇へ一歩前進した。

決勝戦は、京都が沖縄・儀保の立ち上がりを攻め、1番・黒杉の四球、2番・高橋が初球をレフト前ヒット、犠打で二・三塁とし、期待の4番・馬場はショートフライに倒れ、チャンスを逃したかに思われたが、5番・横山が左前にタイムリー、黒杉、高橋が相次

第29回 全日本大学男子選手権大会

1	京都産業大学(京都)	17x	2
2	福島大学(福島)	0	3
3	福岡工業大学(福岡)	5	0
4	筑波大学(茨城)	13	5
5	東海大学(神奈川)	6	1
6	福岡大学(福岡)	7	0
7	名古屋大学(愛知)	3	0
8	広島修道大学(広島)	0	2
9	神戸学院大学(兵庫)	9	6
10	愛知大学(愛知)	5	1x
11	富山大学(富山)	3	0
12	広島経済大学(広島)	4x	2
13	中央大学(東京)	4	0
14	同志社大学(京都)	6x	0
15	関東学園大学(群馬)	11x	1
16	大阪大学(大阪)	1	3
17	日本体育大学(東京)	0	4x
18	沖縄国際大学(沖縄)	2x	18x
19	立命館大学(京都)	4	1
20	愛知学院大学(愛知)	6	3
21	高崎経済大学(群馬)	9	3x
22	松山大学(愛媛)	12	0
23	高知大学(高知)	0	1
24	学習院大学(東京)	8	3
25	龍谷大学(京都)	10x	6
26	仙台大学(宮城)	4	3x
27	国士舘大学(東京)	21x	3
28	九州大学(福岡)	0	2
29	関西大学(大阪)	9x	4
30	早稲田大学(東京)	6	0
31	国際武道大学(千葉)	1x	2
32	中京大学(愛知)	0	0

沖縄国際大学

いで還り、2点を先制した。試合は京都ペースで進み、京都は4回一死から、先発・馬場から抑えの切り札・左腕、天野への継投策に出たが、この必勝パターンが裏目に出た。

沖縄は5回、二死から1番・高良が特大の中越ソロ本塁打を放ち、1点差に追い上げ希望をつなげた。続く6回にも、この回先頭の3番・平良が左前安打で出塁し、すかさず盗塁。動揺した天野から、次打者が四球を選び、6番・仲田がワンボールからの2球目を右中間へ会心の三塁打。2者が生還し、試合を引っ繰り返した。

最終回、京都も昨年の王者の意地を見せ、必死の反撃を試みるが、沖縄のエース・儀保が最後の力を振り絞って力投。味方打線の援護に報いようと最



▲2連覇へ向け、力投を続けた京産・馬場だったが……

後の最後まで闘志溢れるピッチングを展開、京都最後の攻撃を三者凡退に退け、初優勝の栄冠を勝ち取った。

☆決勝戦 (12時29分～14時1分)

京都産業大学	2	0	0	0	0	0	0	0	0
沖縄国際大学	0	0	0	0	1	2	X		
	3x	2							

(京) 馬場・天野・横山
(沖) ○儀保・宇栄原

▽困高良(沖) ㊦仲田(沖) ㊦馬場(京)
〔審〕P樋口 1斎藤 2篠崎 3中村
〔記〕秋山

★準決勝戦 (9時54分～11時57分)

沖縄国際大学	0	0	2	0	0	0	1
龍谷大学	1	0	1	0	0	0	0
	2	3					

(沖) ○儀保・宇栄原

大会うらばなし

群馬県協会広報委員長 丸橋 正彦
「水と緑と詩の街」前橋市に坂井正郎大学連盟会長をはじめ、大勢の役員さんと32チームの選手をお迎えして、8月18日から4日間(雨により1日順延)大会が開催された。

開会式では、市内3校の中学生による合同吹奏楽団の演奏中、地元役員が今日に備えて丹精込めて育てた生花が飾られたダイヤモンドを選手団が入場、群馬県代表・高崎経済大学の田中淳司主将の力強い選手宣誓に、観衆から盛んな拍手が送られた。

観客動員作戦の一環として、地元報道機関の協力を最大限に要請し、上毛新聞(地元紙)、スポーツニッポン、日

(龍) ●石田・三上

▽㊦宇栄原(沖) 川嶋(龍) ㊦高良(沖)							
〔審〕P生方 1石関 2貞方 3川島							
〔記〕高橋							

★準決勝戦 (9時56分～11時39分)

京都産業大学	1	0	1	1	0	0	2
神戸学院大学	0	0	0	0	0	0	2
	2	5					

(京) 馬場・天野・横山
(神) ●飯田・永田

▽困由良2(京) 飯田(神)
〔審〕P須藤 1田中 2原山 3中
〔記〕秋山

刊スポーツの群馬版、群馬テレビなどに県協会から事前に資料を提供、大会1週間ぐらい前から各社が大きく取り上げてくれた。これで前宣伝は上々、さらに大会開催中は、地元チームを中心に連日カラー写真入りで紙面いっぱいに掲載。テレビニュースでも放映され、これらが功を奏し、多数のソフトボールファンが観戦に来てくれた。小学生・中学生・高校生から一般の人々まで、幅広い層のファンが思い思いの場所で、お目当ての選手やチームに声援を送るほほましい光景が随所に見られた。

選手たちは、記録的な猛暑にもかかわらず、その気候に劣らぬ「あつい」戦いで好試合の数々を展開、母校の荣誉と観衆の声援に応え、その姿はさすがしく輝いていた。